

# 信頼される企業であるために 今あるべき姿とは

## Chapter

# 6



○ コスモ石油株式会社 取締役常務執行役員 荻原 宏彦

### ● 社会の目が社員の意識を高める

**荻原** 弊社の千葉製油所で起きた東日本大震災時の火災・爆発事故、そして昨年6月のアスファルト漏洩事故で、残念ながら近隣の住民の皆様をはじめ、たくさんの方にご迷惑とご心配をおかけする結果になりました。これを受けて、今年4月には『CSR活動方針～ココロと安全の「満タン活動」～』を定め、まずこの2年間は社会的信頼の回復に注力します。そのために、社員の意識、文化度の向上をどのように定着させていくか、という点について、ぜひご意見をお聞かせください。

**橘川** 会社として必要な手はすべて打たれているでしょうが、ひとつ重要なのは、大きな評価を見失わないことです。社会がコスモ石油をどう見ているか、そこに自信を持つことが一番必要だと思います。

震災で浮き彫りになったのは、人々の命を救った主なエネルギーはLPガスと石油であったということです。現代社会における石油の重要性がはっきりしたわけです。例えばコスモ石油のSSがあったことで、震災の際に人を救ったエピソードなどはたくさんあると思いますが、そういう話の一つひとつを社員に伝えていくことで、彼らの志気を高め、自信につなげていくことができるのではないのでしょうか。

### ● リスクを意識して正面から立ち向かう

**荻原** 日本の石油エネルギー供給を担う企業としての責任、リスクマネジメントについてはどのようにお考えでしょうか。

**橘川** 原発事故の教訓もありますが、やはり潜在的リスクは大きいということを常に意識する必要があると思います。2010年に起きたBP社のメキシコ湾原油流失事故は、大変なダメージでしたが、ルイジアナに行った時に非常に印象的だったのは、BP社を悪く言う人がほとんどいなかったことです。これは徹底した事後処理と情報開示によるものでしょう。リスクの大きさを認識しながら、そこに正面から立ち向かっていかなければならないということは、まずはっきり浸透させなければいけないでしょうね。

**荻原** そうですね。事故を起こさないのが一番ですが、起きる前からの徹底した安全管理と起きた後の対策については、常に緊張感を持たなければいけませんね。一方で、自社の事業継続も大切ですので、策定したBCPIに沿って緊急事態に備えた訓練も行っています。



出荷作業の様子

コスモ石油グループは、エネルギー供給という公益性の高い事業を行う企業として、社会から期待され信頼され続けるために、どのようなことに配慮すべきか。一橋大学大学院商学研究科教授の橘川氏をお招きし、コスモ石油グループのコンプライアンス、リスクマネジメントへの取り組みについてご意見をうかがいました。

(2013年5月)



一橋大学大学院  
商学研究科

教授 橘川 武郎氏

### ● 培ってきた大きな会社の財産

**橘川** 御社がずっと「ココロも満タンに」とやってきた宣伝広報活動は、確実に社会に対して浸透してきています。単なるマーケティング的なコピーではなく、会社のCSRに対する姿勢を直接表す言葉ですから、それが浸透することは社員も強く意識して業務にあたらないといけない一方で、会社にとって大きな財産であり、社会的な評価につながっていると思います。これは国内だけでなく、海外においても同じことが言えるでしょう。

**荻原** そうですね。この言葉を形として伝えたいですね。

**橘川** 私はぜひコスモ石油グループの社員の方、特に若い方には、アブダビでの御社の勇姿を見てもらいたい。おそらくアブダビのトップの人たちが信用する日本の会社は、コスモ石油ではないかと思います。

**荻原** アブダビでは昨年12月に既存の開発権益が30年間の利権更新になり、またヘイル油田という新たな開発権も取得しましたので、信頼関係はより深くなっています。

**橘川** 原油開発からSSまでのサプライチェーンをすべて持つ石油会社であることを大事にしてもらいたいですね。

関連情報 P10 特集1 さらなる成長へ向けて【製油所の安全・安定操業】

関連情報 P30 重点項目2 誠実な業務遂行

### 橘川 武郎氏プロフィール

1951年和歌山県生まれ。東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得。青山学院大学助教授、東京大学教授を経て、現在、一橋大学大学院商学研究科教授。

著書に『松永安左衛門』『戦前日本の石油攻防戦』（ミネルヴァ書房）、『東京電力 失敗の本質』（東洋経済新報社）、『電力改革』（講談社）ほか。コスモ石油20年史『飛躍へのかけ橋』などエネルギー業界の年史執筆も数多く手がける。



### アブダビ石油株式会社の新利権協定発効

2012年12月、コスモ石油の子会社であるアブダビ石油は、同国で操業している既存3油田の利権更新による生産継続に加え、新たに既発見未開発のヘイル鉱区の利権を取得しました。これはアブダビ石油の40年余りの操業実績や環境技術、生産技術の高さに加え、同国にとって日本が友好的かつ信頼できるパートナーであることが評価されたものと理解しています。

ヘイル鉱区は現在操業中の3油田と同程度の生産規模と見込んでおり、早期の生産開始を成功させ、既存3油田と合わせて、今後30年にわたり安全・安定操業の継続に努めていきます。



ケーキカットの様子

